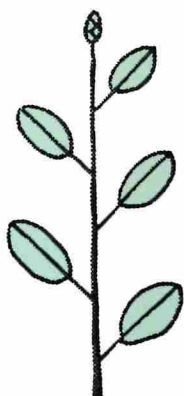


# 付 録

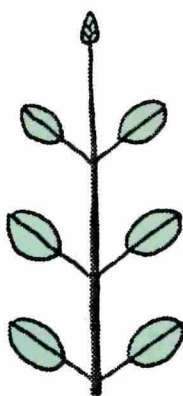
# 用語解説

## 1. 葉のつき方

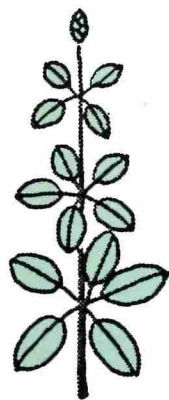
葉はくきの節から出ますが、一つの節から1枚出るもの、二枚出るもの、三枚以上出るものがあります。



ごせい  
互生



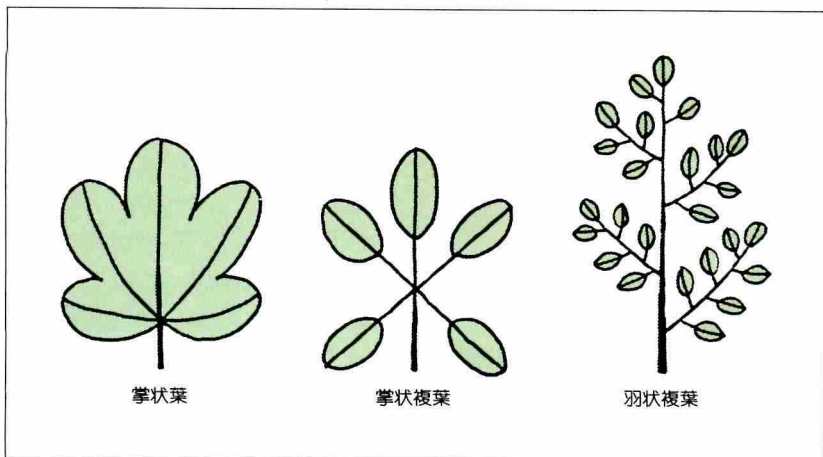
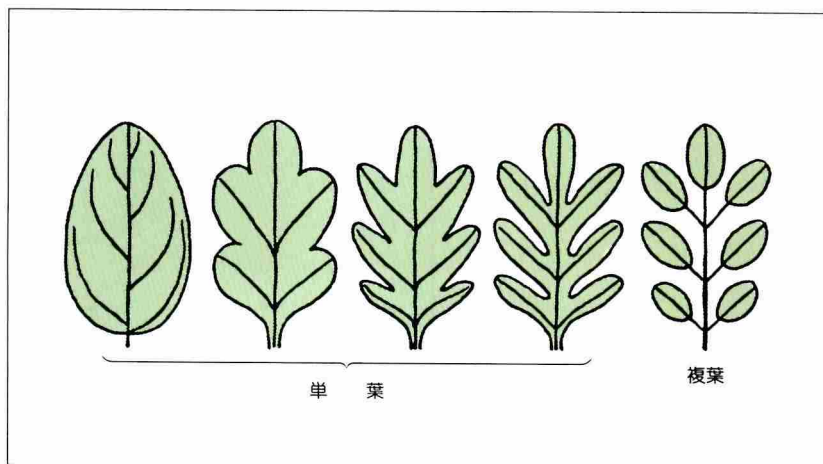
たいせい  
対生



りんせい  
輪生

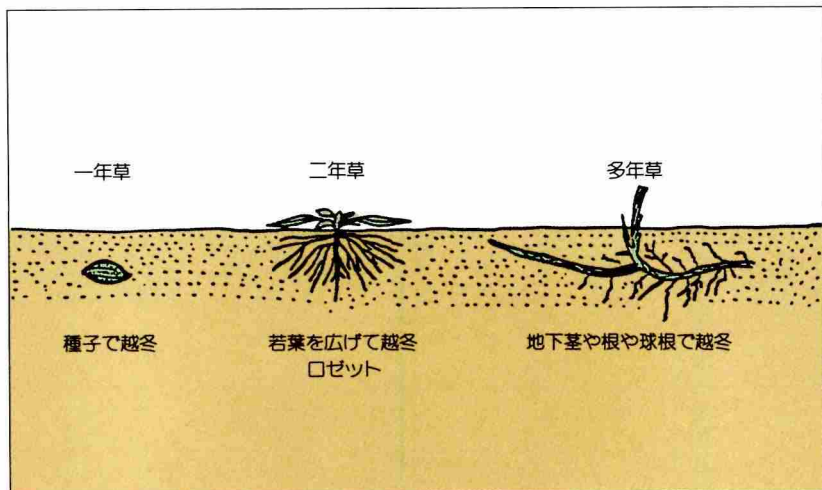
## 2. 単葉と複葉

葉は植物にとって光合成をして栄養分をつくるために、とても大切な器官ですが、その形もいろいろです。もともと一枚の葉だったものが図のように切れこみが深くなり、ついには小さな葉に分かれてしまったものなど、その形も変化に富みます。



### 3. 冬越しのしかたによる分類

草は冬になると、地上に出ている茎や葉が枯れてしまい、種子や地下茎や根などの姿で次の春が来るのを待っています。中には秋の終わりころに発芽し、若葉を地面に広げて冬ごしするものもあります。一方、木は冬になると葉を落とす落葉樹と、冬でも緑色の葉をつけている常緑樹とがあります。落葉して枯れ木のように見える枝先には冬芽がついていて、年々大きくのびていく点が、草とちがうところです。



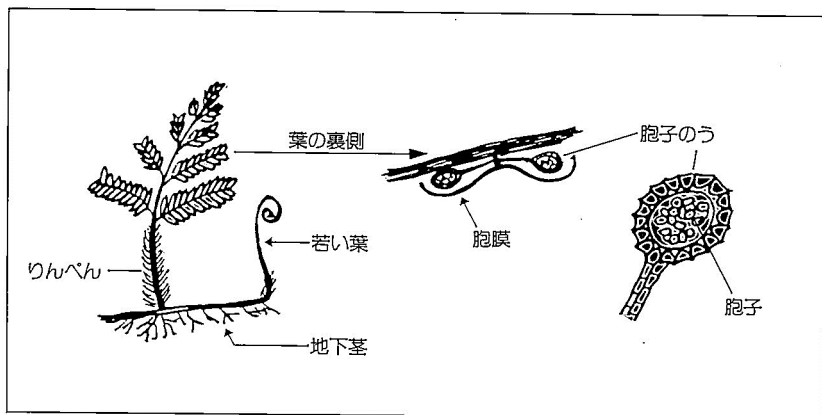
### 4. 帰化植物

本文中「〇〇原産」と書いてあるものは、外国から日本にやってきて、住みついた植物です。水田や畑の雑草の多くは、有史前に稲作文化とともに日本列島に渡ってきたもので、広い意味で帰化植物といえます。けれどもいつぱんには、江戸末期に日本が開国して以後のものを帰化植物と呼んでいます。この本の中に採り上げられている142種の草本のうち34種、24%が帰化植物であり、木本では33種中15種、なんと45%が外来種となっています。豊中市内の農地や林が宅地化するとともに、さらにその割合が増えていくことが予想されます。

## 5. その他

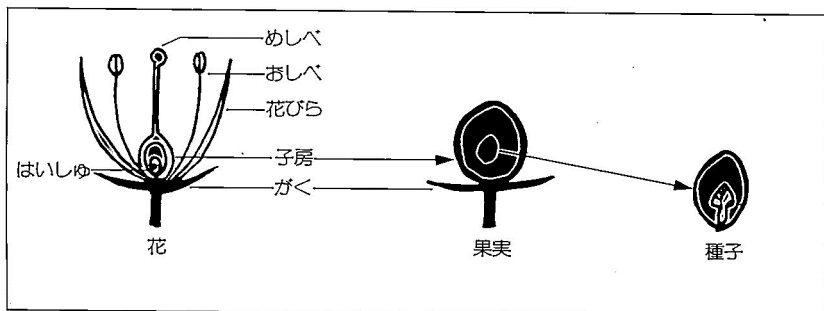
### (1) 胞子、胞膜、胞子のう

シダ類は花が咲きません。その代わりに葉の裏側に目に見えないほど細かい胞子をつくって、それではんしよくします。



### (2) 花のつくりと果実、種子

種子でふえる植物には、すべて花が咲きます。花粉がめしべにつくと、子房がふくらみ、中のはいしゅが育って種子になります。ふつう、花には図のように、おしべとめしべがありますが、ヘチマのようにお花とめ花が同じ株につくもの（雌雄同株）と、スイバのように、それぞれ別の株につくもの（雌雄異株）とがあります。





# 豊中の街路樹

その昔、今のように自動車や電車や飛行機など、便利な乗り物がなかったころ、人々は旅行をするといえば、歩くことがふつうだったでしょう。そんな旅人に、道標になったり、休息のための木かげを与えてくれたりしたのが街道ぞいに植えられた樹木でした。今、私たち都市に住む人間に同じような安らぎとうるおいを与えてくれるのが、道路ぞいに植えられている街路樹ではないでしょうか。

豊中では、市内の主な道路に街路樹が植えられています。これらの樹木は、都市空間にとけ込んで、四季おりおりに、それぞれの豊かな緑を作り出して、人々の目を楽しませたり、強い日差しを和らげたりして、ここにくらす市民にとってなくてはならないものになっています。



# おもな街路樹

● 国道176号線	イチヨウ・プラタナス	● 上野新田線	イチヨウ・ヒラドツツシ他
● 国道423号線（新御堂筋）	イチヨウ	● 二ノ切桃山台線	サクラ・クワガネモチ他
● 府道大阪中央環状線	ポプラ・ユリノキ	● 上新田第23・24号線	ケヤキ
● 府道大阪国際空港線	イチヨウ	● 上新田中央線	イチヨウ・シャリンバイ
● 府道旧大阪中央環状線	イチヨウ・プラタナス他	● 上新田第27号線	ヤマモモ・カンツバキ他
● 府道大阪内環状線	シタレヤナギ	● 東豊中熊野田線	ヤマモモ・ジンチヨウゲ
● 府道吹田真面線	ケヤキ・フサアカシア他	● 千里園熊野田線	イチヨウ・シャリンバイ
● 府道豊中亀岡線	プラタナス・イチヨウ他	● 新千里1号線	イチヨウ・ウバメガシ他
● 府道曾根停車場線	ナンキンハゼ・ヒラドツツシ他	● 旭丘中通り線	ケヤキ・アベリア
● 阪神高速空港線（高架下）	ヤツテ・アオキ他	● 勝部第3号線	クス・トウネズミモチ他
● 清風荘刀根山公園線	キンモクセイ・ヒラドツツシ他	● 松葉通り唐川線	トウカエテ・シャリンバイ他
● 豊中柴原線	キンモクセイ・サザンカ他	● 曾根阪部緑地線	イチヨウ
● 北緑丘団地線	ケヤキ・アベリア	● 勝部寺内線	ホルトノキ・ホックスウッド他
● 小野原豊中線	ケヤキ・アベリア	● 利倉園田線	クス・トウカエテ他
● 翠丘東豊中線	ナンキンハゼ・シャリンバイ他	● 利倉西第8号線	サクラ・フサアカシア他
● 緑丘千里西町線	ユリノキ・シャリンバイ他	● 利倉西歩路第1号線	サクラ
● 新千里西町センター通り線	ユリノキ・アベリア他	● 穂積（東西）緑道	キンモクセイ・クチナシ他
● 千里西町外回り線	ユリノキ・シャリンバイ	● 穂積中央水路十中線	サワグルミ・キンモクセイ他
● 新千里5号線	リンゴ・サクラ他	● 野田堤防緑地帯	サクラ・キョウチクトウ他
● 新千里4号線	サクラ・アベリア他	● 庄内北回り線	サクラ・ツバキ他
● 新千里2号線	ケヤキ・アベリア他	● 音大通り線	クス・シャリンバイ
● 新千里3号線	トネリコ・アベリア他	● 豊南町東第5号線	ヤマモモ・クチナシ他
● 東丘小学校通り線	サクラ・アベリア	● 庄内中央緑道	ケヤキ・キンモクセイ他
● 柴原町第55号線	キンモクセイ・ヤマモモ他	● 庄内南1号線	ヤマモモ・シャリンバイ他
● 神崎刀根山線	サワグルミ・シャリンバン他	● 親水水路緑線	サザンカ・カナメモチ他
● 上野東第6号線	サクラ	● 旧猪名川緑地帯	サクラ・キンモクセイ他
● 三ツ池堤防桜並木	サクラ	● 神崎川河道敷緑地帯	トハラ・アベリア他





# 保護樹林・保護樹木

皆さんは『保護樹林・保護樹木』ということばをご存じでしょうか。市の緑化施策の一つなのですが、公園や並木道のように、新しく緑地をつくり出すという性格のものではなく、現存する木や林を大切に守っていかうとするものです。

かつて豊中は雑木林に恵まれた、緑豊かな街でした。ところが、開発の波がまちのすみずみにまで及び、まとまった木や豊かな緑は、市北部の一部と服部緑地公園、神社や寺院などにしか見られなくなってしまいました。

市では、こうした現状に対処するために、緑化施策を進めています。『保護樹林・保護樹木』はその一環として、昭和48年12月に「環境保全条例」の制定に伴って指定されたものです。

保護樹林としては春日神社、住吉神社、マツ林で知られる稻荷神社をはじめ、庄内神社、原田神社の樹林、市軸天神のサザンカの生垣などがよく知られています。市内では全部で14カ所、約8ヘクタールがこの指定を受けています。

一方、保護樹木は全部で200本近くが指定されていますから、皆さんの近くにも見られるのではないのでしょうか。「へえー、あの木が保護樹木だったのか……」と思われる方も多いでしょう。

保護樹木で有名なのは、宝珠寺のヤマモモ、西福寺のフロマツ、くら橋神社のクスノキなど。いずれも、200～300年近い樹齢を誇る大木で、中には1000年以上の長い歳月を経てきたものもあります。

保護樹林・保護樹木は街の貴重な緑の財産ですから大切に守っていかたいものです。



## 保護樹林

(昭和63年6月1日現在)

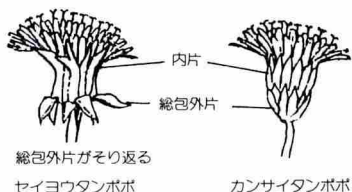
● <sup>かすが</sup> 春日神社(宮山)	樹林面積4,900㎡
● <sup>てん</sup> 天神社	樹林面積3,300㎡
● <sup>とくりんじ</sup> 徳林寺	樹林面積2,600㎡
● <sup>いちじくてんじん</sup> 市軸天神	サザンカ生垣(高さ2m延長40m)
● <sup>いなり</sup> 稲荷神社	樹林面積11,700㎡
● <sup>ぼつがんじ</sup> 仏眼寺	樹林面積7,000㎡
●原田神社	樹林面積7,900㎡
●住吉神社	樹林面積8,600㎡
● <sup>とくろ</sup> 春日神社(利倉)	樹林面積3,100㎡
●住吉神社(服部)	樹林面積7,600㎡
●庄内神社	樹林面積4,100㎡
●観音寺	樹林面積7,600㎡



# タンポポから見た自然環境

1985年にタンポポを指標とした豊中の自然環境調査が行われました。その結果（1986、河野）を要約すると次の通りです。

豊中でよく見られるタンポポは、「カンサイタンポポ」と「セイヨウタンポポ」です。「セイヨウタンポポ」は1900年（明治33年）以降に外国から日本に入ってきた、いわゆる「帰化植物」です。「カンサイタンポポ」と「セイヨウタンポポ」は、一見するとよく似ていますが、簡単に区別できません（本文参照）。この2種は外見とちがい、生態は大変異なっています。その生態のちがいから、成育している辺りの自然環境をある程度判断することができます。次の表のように、「カンサイタンポポ」と「セイヨウタンポポ」の生態上のちがいをまとめることができます。



総包外片がそり返る  
セイヨウタンポポ

カンサイタンポポ

すなわち、「カンサイタンポポ」が生えている場所の周辺はまだ自然が残っており、「セイヨウタンポポ」しか見られない場所の周辺は、環境が大きく変わっていると言えます。

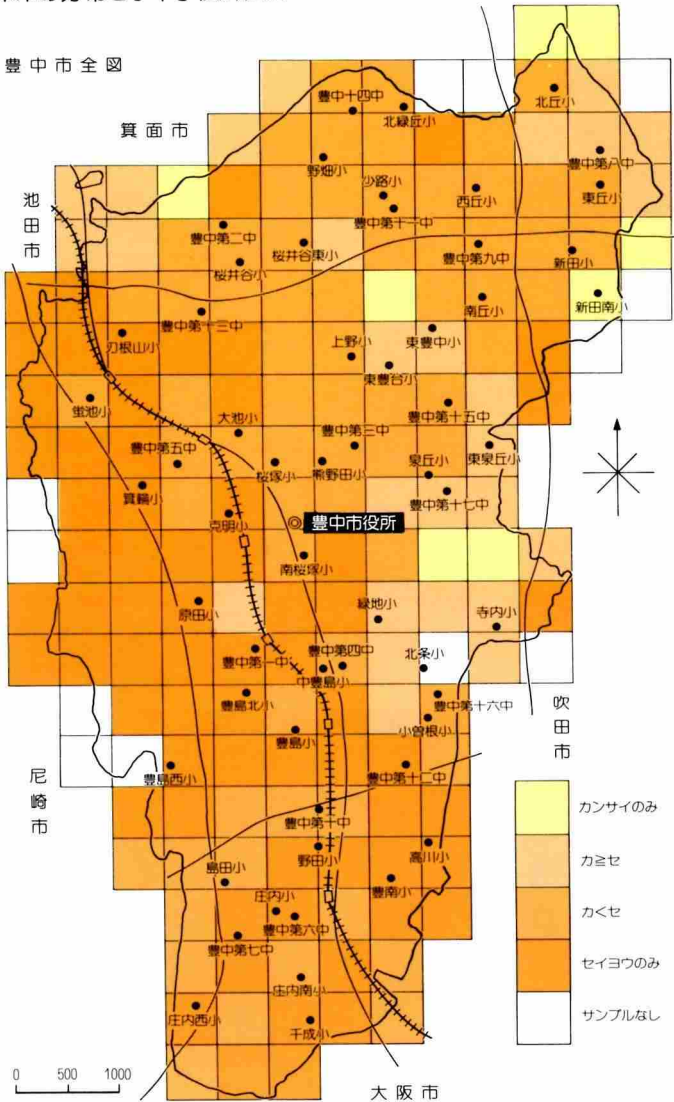
1980年の同様の調査と今回の結果を比較して、次のようなことが言えると思います。

豊中の自然環境は、水がきれいで、緑豊かな環境を好む、むかしから日本に住んでいる動・植物にとっては住みにくい環境になりつつあることをタンポポが教えています。

項目/種類	カンサイタンポポ	セイヨウタンポポ
1頭花あたりの小花の数	45~65個	160~230個
種子の結実に	チョウ・ハチなど虫が必要	虫がいなくても結実する。
花の時期	4月~6月末	4月~晩秋
土地（土壌）のようす	PH 6前後のやや酸性土壌で有機質に富んだ昔からの土地。湿潤な土地。	PH 7以上のアルカリ土壌、造成地などのやせた土地や乾燥した土地にもよく耐える。
大気に対して	NO <sub>x</sub> 好まない	NO <sub>x</sub> にもよく耐える。

■タンポポの分布と小中学校所在地

豊中市全図



# 索引

ア	アオカモジグサ (イネ科).....48
	アオギリ (アオギリ科).....184
	アカサ (アカサ科).....124
	アカネ (アカネ科).....111
	アカマツ (マツ科).....164
	アカマンマ (タテ科).....125
	アキノレ (ニレ科).....176
	アキノエノコログサ (イネ科).....134
	アキノギリソウ (キク科).....106
	アキノタムラソウ (シソ科).....114
	アキメヒシバ (イネ科).....132
	アシ (イネ科).....138
	アメリカセンダングサ (キク科).....105
	アメリカフウロ (フウロウソウ科).....71
	アメリカヤマゴボウ (ヤマゴボウ科).....121
	アラカシ (ブナ科).....166
	アレチギシギシ (タテ科).....81
	アレチヌスビトハギ (マメ科).....119
	アレチノギク (キク科).....54

イ	イシミカワ (タテ科).....82
	イタドリ (タテ科).....126
	イチヨウ (イチヨウ科).....162
	イヌガラシ (アブラナ科).....33
	イヌタデ (タテ科).....125
	イヌハギ (マメ科).....118
	イヌヒエ (イネ科).....92
	イヌビユ (ヒユ科).....122
	イヌムギ (イネ科).....44
	イノコスズチ (ヒユ科).....123
	イノモトソウ (イノモトソウ科).....147
	イワニガナ (キク科).....17

ウ	ウキクサ (ウキクサ科).....88
	ウシノヒタイ (タテ科).....127
	ウシハコベ (ナデシコ科).....36
	ウツボグサ (シソ科).....59
	ウド (ウコギ科).....66
	ウバメガシ (ブナ科).....167
	ウマゴヤシ (マメ科).....27
	ウラジロ (ウラジロ科).....144

エ	エノキ (ニレ科).....173
	エノコログサ (イネ科).....134

オ	オオアレチノギク (キク科).....5
	オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科).....1
	オオオナモミ (キク科).....10
	オオウシノグサ (イネ科).....9
	オートムギ (イネ科).....9
	オオニシキソウ (スベリヒユ科).....71
	オオバノモトソウ (イノモトソウ科).....14
	オオバコ (オオバコ科).....5
	オオバタクサ (キク科).....91
	オオマツヨイグサ (アカバナ科).....6
	オギ (イネ科).....141
	オギヨウ (キク科).....11
	オトコヨモギ (キク科).....10
	オナモミ (キク科).....10
	オニタビラコ (キク科).....1
	オニノゲシ (キク科).....1
	オニヤアソデツ (オシダ科).....141
	オハナ (イネ科).....14
	オヒシバ (イネ科).....133
	オヘビイチゴ (バラ科).....21
	オミナエシ (オミナエシ科).....11
	オヤブシラミ (セリ科).....6
	オランダミミナグサ (ナデシコ科).....37

カ	カイスカイブキ (ヒノキ科).....166
	ガガイモ (ガガイモ科).....61
	カキネガラシ (アブラナ科).....76
	カスノコグサ (イネ科).....46
	カゼクサ (イネ科).....135
	カタバミ (カタバミ科).....24
	カナムグラ (クワ科).....128
	カニクサ (カニクサ科).....145
	ガマ (ガマ科).....96
	カモガヤ (イネ科).....95
	カモジグサ (イネ科).....48
	カヤ (イネ科).....140
	カヤツリグサ (カヤツリグサ科).....89
	カラスウリ (ウリ科).....108
	カラスノエンドウ (マメ科).....25
	カラスムギ (イネ科).....90
	カロリナポブラ (ヤナギ科).....170
	カワラナデシコ (ナデシコ科).....78
	カンサイタンポポ (キク科).....12

キ	キキヨウ (キキヨウ科).....109
---	----------------------

	キクイモ (キク科) .....	101
	ギシギシ (タデ科) .....	81
	キツネノボタン (キンボウゲ科) .....	35
	キツネノマゴ (キツネノマゴ科) .....	113
	キュウリグサ (ムラサキ科) .....	22
	キョウチクトウ (キョウチクトウ科) .....	182
	ギョウキシバ (イネ科) .....	133
	キリ (ゴマノハグサ科) .....	178
	キンエノココ (イネ科) .....	134
	キンモクセイ (モクセイ科) .....	187
ク	クス (マメ科) .....	73
	クスノキ (クスノキ科) .....	179
	クローバー (マメ科) .....	72
	クロマツ (マツ科) .....	164
ケ	ケイヌヒエ (イネ科) .....	92
	ケキツネノボタン (キンボウゲ科) .....	35
	ケチヂミザサ (イネ科) .....	137
	ケヤキ (ニレ科) .....	174
	ゲンゲ (マメ科) .....	26
	ゲンノショウコ (フウロソウ科) .....	115
コ	コウキクサ (ウキクサ科) .....	88
	コオニタヒラコ (キク科) .....	41
	コシダ (ウラボシ科) .....	144
	コナスビ (サクラソウ科) .....	62
	コナラ (ブナ科) .....	165
	コニシキソウ (トウダイグサ科) .....	70
	コバンソウ (イネ科) .....	91
	コヒルガオ (ヒルガオ科) .....	60
	コメヒシバ (イネ科) .....	132
	コモチマンネングサ (ベンケイソウ科) .....	29
サ	サクラ (バラ科) .....	158
	サルスベリ (ミソハギ科) .....	183
	サルトリイバラ (ユリ科) .....	41
	サワグルミ (クルミ科) .....	169
	サンゴジュ (スイカズラ科) .....	185
シ	ジシバリ (キク科) .....	17
	シナサワグルミ (クルミ科) .....	169
	シロザ (アカザ科) .....	124
	シロツメクサ (マメ科) .....	72
	シロバナタンポポ (キク科) .....	12

	シロバナマンテマ (ナデシコ科) .....	38
	ジャンヒゲ (ユリ科) .....	86
	ジュウヤク (ドクダミ科) .....	83
	ジュスダマ (イネ科) .....	136
ス	スイバ (タデ科) .....	80
	スカシタゴボウ (アブラナ科) .....	33
	スカンボ (タデ科) .....	80
	スギ (スギ科) .....	159
	スギナ (トクサ科) .....	142
	ススキ (イネ科) .....	140
	ススカケノキ (ススカケノキ科) .....	177
	スズメウリ (ウリ科) .....	108
	スズメノカタビラ (イネ科) .....	43
	スズメノテッポウ (イネ科) .....	45
	スズメノヤリ (イグサ科) .....	42
	スベリヒコ (スベリヒコ科) .....	79
	スミレ (スミレ科) .....	23
セ	セイヨウカラシナ (アブラナ科) .....	32
	セイヨウタンポポ (キク科) .....	12
	セイダカアワダチソウ (キク科) .....	107
	セトガヤ (イネ科) .....	45
	セリ (セリ科) .....	65
	センダングサ (キク科) .....	105
	センニンソウ (キンボウゲ科) .....	77
	ゼンマイ (ゼンマイ科) .....	143
ソ	ソメイヨシノ (バラ科) .....	158
タ	タカラシ (キンボウゲ科) .....	34
	タチイヌノフグリ (ゴマノハグサ科) .....	19
	タチツボスミレ (スミレ科) .....	23
	タネツケバナ (アブラナ科) .....	31
チ	チカラシバ (イネ科) .....	139
	チガヤ (イネ科) .....	46
	チチコグサ (キク科) .....	16
	チヂミザサ (イネ科) .....	137
	チドメグサ (セリ科) .....	64
ツ	ツクシ (トクサ科) .....	142
	ツタ (ブドウ科) .....	188
	ツ/キ (ツ/キ科) .....	190
	ツボミオオバコ (オオバコ科) .....	57

	ツククサ (ツククサ科) ……………	87		ヒノキバヤドリギ (ヤドリギ科) ……………	189
	ツリガネニンジン (アカネ科) ……………	112		ヒマラヤスギ (マツ科) ……………	163
	ツワブキ (キク科) ……………	10		ヒメオドリコソウ (シソ科) ……………	21
ト	トウカエタ (カエタ科) ……………	172		ヒメコバンソウ (イネ科) ……………	91
	トウバナ (シソ科) ……………	58		ヒメジョオン (キク科) ……………	53
	トキワハゼ (ナデシコ科) ……………	39		ヒメムカシヨモギ (キク科) ……………	55
	トクダミ (トクダミ科) ……………	83		ヒャクシツクウ (ミソハギ科) ……………	183
ナ	ナガハグサ (イネ科) ……………	43		ヒヨドリジョウゴ (ナス科) ……………	116
	ナギナタガヤ (イネ科) ……………	47		ヒルガオ (ヒルガオ科) ……………	60
	ナスナ (アブラナ科) ……………	30	フ	フキ (キク科) ……………	10
	ナンキンハゼ (トウダイグサ科) ……………	181		フジバカマ (キク科) ……………	102
ニ	ニガナ (キク科) ……………	15		フタクサ (キク科) ……………	98
	ニシキソウ (トウダイグサ科) ……………	70		フアナ (キク科) ……………	13
	ニワゼキショウ (アヤメ科) ……………	40		フラタナス (スズカケノキ科) ……………	177
ヌ	ヌスビトハギ (マメ科) ……………	119	ハ	ハクソカズラ (アカネ科) ……………	56
ネ	ネコジャラシ (イネ科) ……………	134		ハビイチゴ (バラ科) ……………	28
	ネコハギ (マメ科) ……………	118		ヘニシダ (オシダ科) ……………	149
	ネサザ (イネ科) ……………	152		ヘラオオバコ (オオバコ科) ……………	57
	ネジバナ (ラン科) ……………	84	ホ	ホウキギク (キク科) ……………	100
	ネスミムギ (イネ科) ……………	93		ホオコグサ (キク科) ……………	16
ノ	ノアザミ (キク科) ……………	52		ホソムギ (イネ科) ……………	93
	ノキシノブ (ウラボシ科) ……………	150		ホトケノザ (シソ科) ……………	20
	ノグシ (キク科) ……………	14	マ	マスクサ (カタツリグサ科) ……………	89
	ノコンギク (キク科) ……………	99		マダケ (イネ科) ……………	153
	ノビル (ユリ科) ……………	85		マツヨイグサ (アカバナ科) ……………	67
ハ	ハクモクレン (モクレン科) ……………	157		マメゲンバインズナ (アブラナ科) ……………	30
	ハコベ (ナデシコ科) ……………	36		マンジュシャゲ (ヒガンバナ科) ……………	130
	ハチク (イネ科) ……………	153		マンデマ (ナデシコ科) ……………	38
	ハナイバナ (ムラサキ科) ……………	22	ミ	ミソソバ (タデ科) ……………	127
	ハハコグサ (キク科) ……………	16		ミノゴメ (イネ科) ……………	49
	ハルジョオン (キク科) ……………	53	ム	ムクノキ (ニレ科) ……………	175
	ハルノグシ (キク科) ……………	14		ムラサキサギゴケ (ゴマノハグサ科) ……………	39
	ハンテンボク (モクレン科) ……………	180		ムラサキツメクサ (マメ科) ……………	72
ヒ	ヒガンバナ (ヒガンバナ科) ……………	130	メ	メタセコイヤ (スギ科) ……………	161
	ヒシ (ヒシ科) ……………	68		メドハギ (マメ科) ……………	74
	ヒノキ (ヒノキ科) ……………	160		メヒシバ (イネ科) ……………	132



モ	モウソウチク (イネ科) .....	153
	モクセイ (モクセイ科) .....	187
	モクレン (モクレン科) .....	157
	モジズリ (ラン科) .....	84
ヤ	ヤイトバナ (アカネ科) .....	56
	ヤエムグラ (アカネ科) .....	18
	ヤドリギ (ヤドリギ科) .....	189
	ヤハズソウ (マメ科) .....	117
	ヤブガラシ (ブドウ科) .....	69
	ヤブジラミ (セリ科) .....	63
	ヤブソテツ (オシダ科) .....	148
	ヤブタバコ (キク科) .....	11
	ヤブニツケイ (クスノキ科) .....	179
	ヤブラン (ユリ科) .....	131
	ヤマノイモ (ヤマノイモ科) .....	129
	ヤマモモ (ヤマモモ科) .....	171
ユ	ユーカリシュ (フトモモ科) .....	186
	ユキノシタ (ユキノシタ科) .....	75
	ユリノキ (モクレン科) .....	180
ヨ	ヨウシュヤマゴボウ (ヤマゴボウ科) .....	121
	ヨシ (イネ科) .....	138
	ヨメナ (キク科) .....	99
	ヨモギ (キク科) .....	104
レ	レンゲソウ (マメ科) .....	26
ワ	ワラビ (イノモトソウ科) .....	146
	ワレモコウ (バラ科) .....	120

## あとがき

各地で郷土の自然を紹介した本がいくつか出されていますが、豊中でもこのような本が出せないものかと考えていました。

折しも、豊中市立教育研究所の開設40周年に当たる昨年、話がまとまり、豊中市の植物のガイドブックを出版することになりました。そして、そのためのガイドブック作成委員会が結成されました。

まず、仕事の手順について話し合い、掲載する植物を決めました。そして、写真を撮るなど委員の精力的な活動が始まりました。しかし、それでも既に花の時期の終わったものがあることには、困ってしまいました。日の長い放課後や、休みの日にカメラを肩に歩き回る日が続きました。月に一度か二度の会合を持ち、作業の進み具合を確かめるとか、次の作業の確認などをしました。それは、たいてい土曜日の午後をあて、深夜にまでなることもありました。

しかし、和気あいあいの中で仕事が進められました。ときには話し合いの途中で、千里川で捕えたスッポンが運び込まれ、話は中断して、写真を撮るやら、珍客の観察におおわらわになるということもありました。

さて、この冊子は、小学校中学年でも利用できるようにということで書き出しましたが、今読み返してみますと、少し無理かなとも思われます。

ともかく、豊中にある植物の入門書ということで、少しでも多くの人々に興味を持っていただき、役立てていただければ幸いです。

ガイドブック作成委員会

## 参考文献

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| 牧野新日本植物図鑑           | 北隆館       |
| 原色牧野植物大図鑑           | 北隆館       |
| 日本帰化植物図鑑            | 北隆館       |
| 原色日本植物図鑑（上・中・下）     | 保育社       |
| 原色日本帰化植物図鑑          | 保育社       |
| 原色日本羊歯植物図鑑          | 保育社       |
| 人里の植物 I・II（カラーブックス） | 保育社       |
| 野の草花図鑑 一名前といわれ一     | 偕成社       |
| 日本の野生植物 一草本一        | 平凡社       |
| 世界の植物               | 朝日新聞社     |
| 日本原色雑草図鑑            | 全国農村教育協会  |
| 岩波生物学事典             | 岩波書店      |
| 伊丹の植生               | 伊丹市立教育研究所 |
| 豊中植物誌               | 豊中市立教育研究所 |
| 教育研究双書 第33・34集      |           |
| 理科教育に関する研究          | 豊中市立教育研究所 |



## 編集委員

(体験学習開発委員会ガイドブック部会)

板坂 知子 (豊中市立東豊中小学校)

杉田 福松 (豊中市立高川小学校)

山口 寿 (豊中市立泉丘小学校)

石田 泰宏 (豊中市立少路小学校)

八木 静雄 (豊中市立寺内小学校)

岡 恒夫 (豊中市立第三中学校)

中川 均 (豊中市立第四中学校)

飯島 昌 (豊中市立第七中学校)

真野 隆夫 (豊中市立第十一中学校)

清水 恵子 (豊中市立第十四中学校)

河野猪太夫 (豊中市立教育研究所)

黒田 智一 (豊中市立教育研究所)

横山 賞三 (豊中市立教育研究所)

カラーイラスト

斉喜 慶三 (豊中市立第十五中学校)

自然ガイドブック

とよなか 一草と木一

---

1989年(平成元年)7月 再版

発行 豊中市教育委員会

調査・編集 豊中市立教育研究所

〒560 豊中市長興寺南3丁目5番2号

☎ (06) 862-4624

印刷 日本写真印刷株式会社

---

